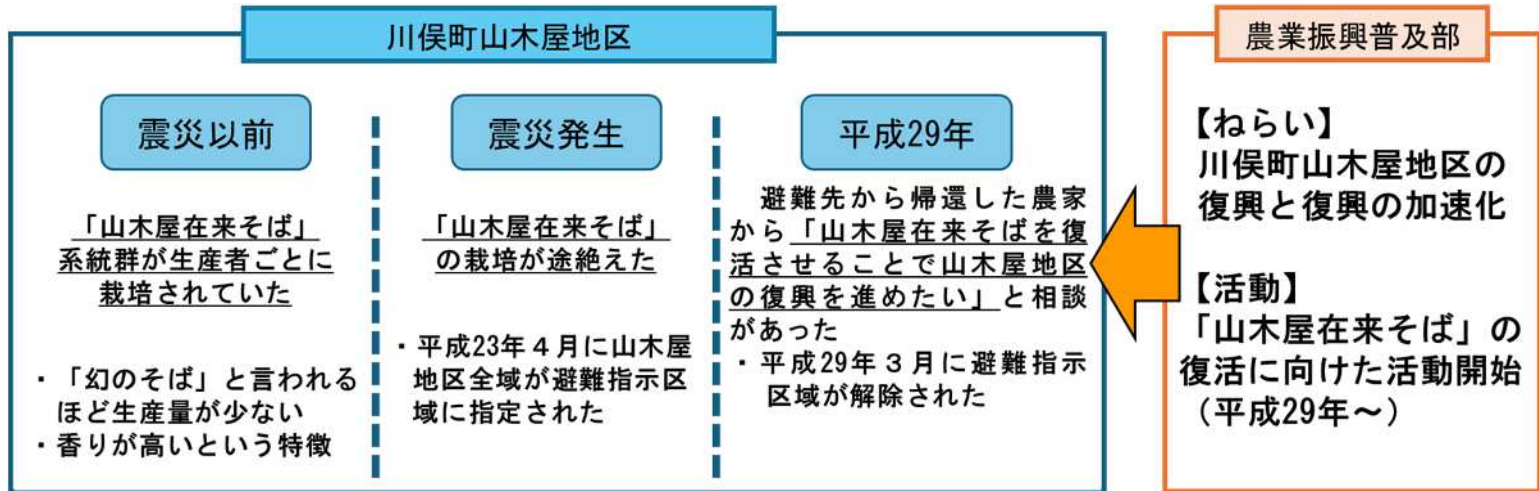


「山木屋在来そば」の復活 ～東日本大震災からの復興の加速化～

県北農林事務所農業振興普及部

背景・ねらい



活動内容

1 生産基盤の再構築（平成29年～）

（1）種子の確保と増殖

純系の「山木屋在来そば」の種子が川俣町山木屋地区（以下、「山木屋地区」という）に残っていなかったことから、震災後に広島県の農業法人のもとに疎開していた種子や試験研究機関が保管していた種子を用いて増殖を行った。

（2）栽培品種の統一

営農を再開した平成29年には、複数の系統や品種が栽培されていたが、虫媒花であるそばの交雑を防ぐため、純系種子の増殖と併せて、現地検討会や試食会を開催し、地域全体の合意形成を図り、栽培する品種を純系の「山木屋在来そば」に統一した。

（3）対象の組織化

川俣町の担当者と連携し、川俣町山木屋地区のそば生産者及びそば打ち会に働きかけ、そば生産者及び打ち手25名からなる「山木屋在来そば振興組合」（以下、「組合」という）を設立した（令和3年）。

（4）栽培技術の統一と作付面積の拡大

農業振興普及部が独自に作成した技術資料や試験研究機関と連携して設置した実証ほの結果を活用し、組合員を対象とした指導会を定期的に行うことで、栽培技術の統一と作付面積の拡大を進めた。

2 「山木屋在来そば」の商品化（令和元年～）

（1）ブランド構築

「山木屋在来そば」の商品化を進めるため、「高原の宇宙（そら）」の商標登録を支援した（令和4年に商標登録）。併せて食品表示や販売戦略に関する専門家及び補助事業の活用を誘導し、チラシやのぼり等の販売促進資材の作成を支援した。



（2）販路開拓

「山木屋在来そば」の販路を開拓するため、川俣町の担当者と連携し、令和元年に山木屋地区の飲食店関係者を集めて、そばの試食会を開催した。その後の作付面積の拡大に合わせて、山木屋地区以外の販路開拓を支援した。



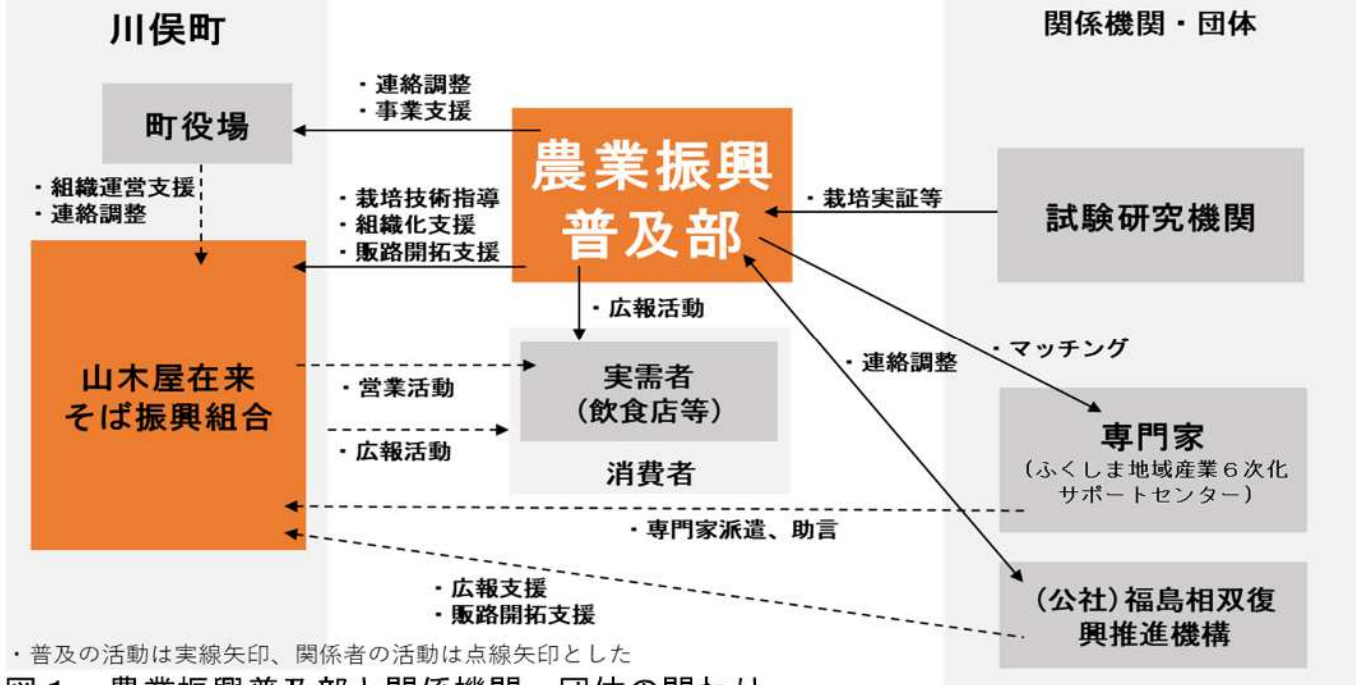


図1 農業振興普及部と関係機関・団体の関わり

活動成果

1 「山木屋在来そば」の作付面積が拡大

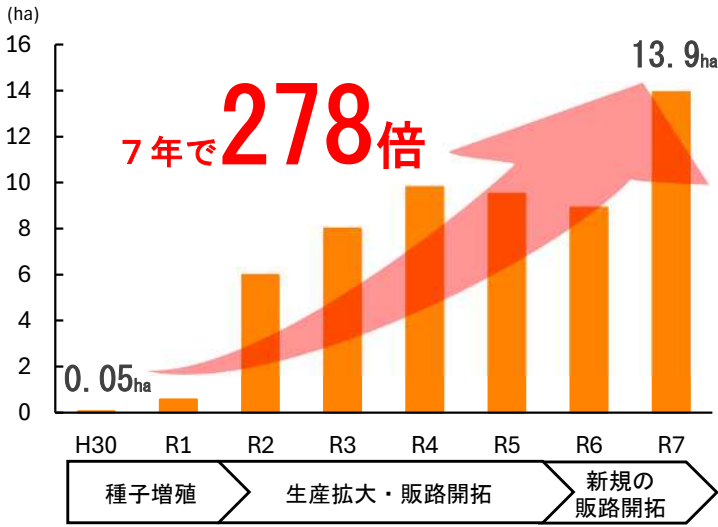


図2 作付面積の推移 (普及部調べ)

2 営農再開時の作付品目の1つとして定着

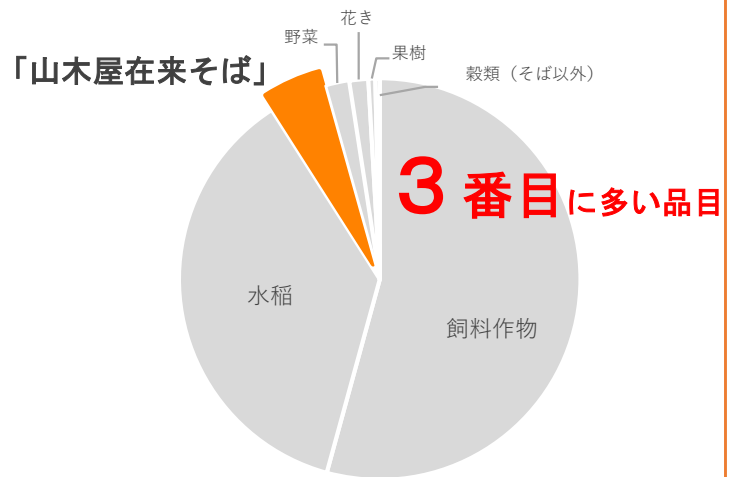


図3 令和7年度品目別営農再開面積割合

3 販路拡大

生産基盤の再構築と「山木屋在来そば」の商品化を併せて支援したことにより、山木屋地区の1店舗と山木屋地区外の1店舗の合計2店舗で使用されている。(令和7年12月現在)



4 山木屋地区の復興

「山木屋在来そば」の復活を山木屋地区の復興のシンボルとすべく、令和4年から毎年秋に「新そば祭り」が開催されており、山木屋地区内外から多くのファンが訪れている。



今後の活動・方向性

山木屋地区の復興のシンボルへ

- 作付面積拡大と販路拡大
- 春播き・秋播き緑肥の栽培実証

- SNSを活用した周知活動
- ブランド力強化による交流人口の創出

